

# ドキッ!! とお話をしました。

## お話①

ね、お父さん。世界が100人の村だとしたら、そのうち60人くらいの方が住む家も食べるものもなく困っているって聞いたよ。それって、ほんとう？  
ああ、ほんとうだよ。6人が世界全体の富の59パーセントを保有し、その6人ともがアメリカ合衆国国籍、80人が標準以下の居住環境に住み、14人は文字が読めない。50人は栄養失調に苦しんでいる。世界を小さくしてみれば100人の村のこんなに多くの仲間が苦しんでいるんだよ。

## お話②

ある日、大変なお金持ちが、貧しい経験を自分の息子に経験させようと思いました。田舎の知人の家に息子を預けて、世の中の人々が実際にどれほど貧しいのかを見せようと思ったのです。田舎での滞在を終え、息子が家に帰ってくると、父親は尋ねました。

「どんなに貧しいか、わかっただろ？」

「そうだね。よくわかったよ」と息子は答えました。

「おまえはどんなことがわかったんだい？」息子は答えました。

「僕たちの家には籠の中の小鳥が1羽しかいないけど、

あの農家には犬と牛とたくさんの小鳥がいたよ」

「僕たちの家には、庭にプールがあるけど、

あの人たちのところには、どこまでも続く川があるんだ」

「僕たちの庭には夜、まぶしい電灯があるけど、

あの人たちのところには夜、満点の星空があるんだね」

「僕たちは、小さな地面に住んでるけど、あの人たちの住んで

いるところは、見えないくらい遠くまで広がっているんだね」

「僕たちには、僕たちに奉仕する召使いがいるけど、

あの人たちは他の人たちのために奉仕しているんだね」

「僕たちは自分たちの食べ物を買うけど、あの人たちは

自分たちの食べ物を育てているんだね」

「僕たちの家の周りには、僕たちを守るための壁があるけど、

あの人たちには守ってくれる友だちがいるんだね」

息子の返事に、父親は言葉を失いました。そして、息子はこう言いました。

「お父さん、僕たちがどんなに貧しいかを見せてくれてありがとう」

「100人の村は楽園だ、たより 抜粋」